

「ほっかいどう民俗芸能伝承 e フォーラム 意見交換」

(森教授)

ご紹介いただきました、札幌大谷大学の森雅人です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。民俗芸能の伝承につきましても、今年は大きな試練の年ではなかったかなと思っております。

そうした状況の中で、このような形で、リモートによる民俗芸能伝承の e フォーラムの開催ができますことは、この試み自体がコロナ禍における新たな伝承の可能性を示すことになるのではないかと考えております。1時間くらいの短い時間になりますが、最後までお付き合いいただければと思っております。

本日の意見交換は、4つの代表団体に加わっていただきます。私の方から、参加していただいた各団体の皆様にお聞きして、意見交換を交えながら進行させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、初めに、自己紹介も兼ねまして、伝承にあたっての課題についてお話いただきたいと思っておりますが、まずは、日向神代神楽愛好会さん、よろしくお願いいたします。

(日向神代神楽愛好会)

よろしくお願いいたします。日向神代神楽愛好会の田中と申します。

伝承にあたっての課題は、多寄地区になかなか入ってくる人が少ないという課題がございます。去年、多寄地区以外の人が入ってきて、他にも中学生が入会して踊ったりすることはありましたが、より多寄地区のつながりを強めていくことが、今の課題ではないかと思っています。

(森教授)

後でまたお聞きしたいと思いますが、続きまして、苫前町くま獅子保存会さん、お願いし

ます。

(苦前町くま獅子保存会)

苦前町くま獅子保存会の花井と言います、よろしくお願いします。

課題ということですが、指導者のこととして、鳴り物の笛や太鼓はまだいいのですが、踊りを指導する方が、80代ということで、本当の踊りを指導していただける方が少なくなっており、その辺は確保のしようがないのですけれども、今の若いメンバーにどう伝えていくのが課題だと思っています。

(森教授)

では、羽幌町こきりこ唄保存会さん、よろしくお願いします。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

羽幌町こきりこ唄保存会の斉藤です。よろしくお願いします。

私どものこきりこ唄は、創設以来40年以上経っており、指導者の人が大変高齢化しており、若い世代に受け継いでいく、若い人たちを確保するのが大変難しい時代です。小学5年生が、学芸会の発表を通して毎年行っておりますが、その子どもたちも卒業していけば、なかなか羽幌に戻らないので、いかにしてその若い人たちをつなぎとめていくか悩んでおります。

(森教授)

豊郷神楽保存会の皆様、お願いいたします。

(豊郷神楽保存会)

はい。豊郷神楽保存会の井上でございます。どうぞよろしくお願いします。

私どもの神楽でも、皆様がおっしゃったように、後継者不足ということが大きな課題でありました。

平成25年には会員が13名まで減少いたしまして、存続の危機になりました。それで、何とかしなければならぬということで、翌年の平成26年から一般公募に踏み切りました。そ

れまでは地域の男性のみで神楽を奉納していたのですが、この際、男女・年齢・居住地を問わず募集したところ、多くの方に入会頂きまして、現在では33名の会員で継承しているという流れになっています。

新たな課題としまして、若い人たちが中心になってきているのですが、転勤や結婚で離れたり、子育てで休会せざるを得なかったりということができまして、それがこれからの課題として今考えているところであります。以上です。

(森教授)

ありがとうございました。今、4つの団体に自己紹介を兼ねまして、伝承にあたっての課題をお聞きいたしました。そうしますと、人口が減っていて、後継者がなかなか入ってこないということや、指導者の不足という問題が指摘されたのかなと思っております。

そういった中で、一番最後の豊郷神楽保存会の井上さんにお話いただいておりますが、平成26年から一般公募をされてこれまでの担い手を少し変えて、広く公募するという形に踏み切ったということだったのですが、他の3団体の皆さん、募集の形について何か変わったことはございますか。日向神代神楽愛好会さん、いかがですか。

(日向神代神楽愛好会)

日向神代神楽愛好会の中村と申します。公募に関してですが、基本的に一般公募をしている形ではあるのですが、表立って皆さんにアピールしているところではなくて、入会してくださる方が少ないのかなという形です。一応、色々な所で演じていて知ってくださる方は多いのですが、なかなか興味関心を持ってくださる方が少ない感じがします。

(森教授)

活動はしているけれど、表立ってなかなかアピールできていないということだったと思います。苫前町くま獅子保存会さん、いかがですか。

(苫前町くま獅子保存会)

一般公募は、町の広報紙等で随時行っているのですが、なかなか入ってくれない状況で

す。ただ、もともと少年団で活動していた20代、30代の若者が二十数名地元に残ってくれています。そのうちの半分以上が、今、会員として入ってくれています。小学校にも行っている関係で小学生も興味を持って来てくれて何名か入ってきてくれていますので、そういった形で若干ですけれども、増えてきている状況です。そういった部分で、まだまだ勧誘を続けていこうかなと思っています。

(森教授)

その方というのは、地元でUターンしてきた方でしょうか。

(苫前町くま獅子保存会)

農業の後継者が多くて、農業の後継者として地元に残ってくれている子もいます。

(森教授)

農業の後継者ですね。

羽幌町のこきりこ唄保存会の皆さん、公募についてはどのような取組でしょうか。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

こきりこ唄保存会の小寺と申します。よろしく申し上げます。こきりこ唄保存会としましては、一般公募として数年前に大きなポスターを作りまして、町の郵便局や官公庁、お店などに貼っていただいたりしましたけれども、何人かは興味を持って来ていただきましたが、入会にはなかなか結びつかないという状況でした。

あとは、月2回、こきりこ唄保存会として例会といいますか、練習をしていますが、興味のある子どもたち十数名がいつも参加してくれています。そのお友達を誘ってきたりなどして、少しずつ増えてはいますけれど、子どもたちもすぐ大きくなって、中学生になると来られなかったり、そういう状況ではあります。

(森教授)

皆さん、それぞれ一般公募も含め様々な取組をしているという中で、徐々に入会していただく、そのような方々もいるということですが、いずれにしても、こういうコロナの時代の

中で、どういう形でまた会員を増やしていくというのが大きな問題になるのかという風に思っておりますし、PR、あるいは勧誘の方法についてはまだまだやり方があるのかなと思って聞いておりました。ありがとうございました。

2番目の質問です。先ほどの1番目の質問の中でも触れていただいていたと思いますが、後継者育成に関する取組、あるいは学校との関わりですね、この辺りについて、少し詳しくお話いただけますでしょうか。後継者の問題についてもう少し詳しくお聞きしたいと思いますのですが、日向神代神楽愛好会さんいかがでしょう。

(日向神代神楽愛好会)

後継者、学校とのつながりでいいますと、地元小学校と昨年度まで中学校があり、それぞれの学校でふるさとを知る「ふるさと教育」ということで、演目を踊ったり、歌詞の内容を理解する授業を、実際に保存会が講師として出向いて指導しているところです。

多寄中学校が昨年度閉校になったのですが、閉校式の中で子どもたちが習った日向神代神楽を実際に烏帽子で踊るという様子がありました。そして実際に踊った中学生が保存会に入会したりということがあったのが現状です。

(森教授)

ふるさと教育というのは何回くらい行っているのでしょうか。

(日向神代神楽愛好会)

ふるさと教育ですが、日向神代神楽の活動自体は、一昨年あたりから始めたもので、2回ほど行っていて、もともとは、別の授業を行っていたのですが、事情があってできなくなり、日向神代神楽に目を向けられて行ったという経緯があります。実際に行ったのは中学生の2回のみで学校が閉校になってしまい、2回しかできていません。小学校は一度指導に行き、今年度も行われる予定だったのですが、コロナウイルスの影響でその授業が流れてしまい、小学校では取り組めていない形となっております。

(森教授)

苦前町くま獅子保存会の皆さん、後継者育成、学校との関わりについてよろしくお願ひします。

(苦前町くま獅子保存会)

後継者問題については、先ほど申しましたとおり、地元に戻ってきてくれている若い人たち、20代30代、30代半ばぐらいまでの、獅子舞を体験した人たちが結構残ってくれていますので、そういった人たちを中心に勧誘をかけていくのと、消防署の職員ですけれども、札幌出身の職員が獅子舞を観て、興味を持っていただき、入りたいということで入っていたり、そういった関係で、興味を持ってくれている方がまだ多数いてくれているので、個別に声をかけながら、やって行きたいと思っています。

あと、町内に2校小学校があり、そのうち1校で地域の郷土芸能の授業を行っている関係で、毎年1日だけですが、獅子舞の話をしに行っています。そこで興味を持った子どもたちが、やりたいということで入ってくれています。ただし、実際は獅子舞を踊れる子どもたちの人数が限られてしまいますので、なかなかやりたいという子全部を入れてすることができないのですが、子どもたちを何人かずつ入れて興味を持ってやってくれているということでございます。

(森教授)

先ほど苦前町くま獅子保存会の話の中で、踊りの指導者がなかなか大変だという話だったのですが、このあたりは、何か対策など取られていますでしょうか。

(苦前町くま獅子保存会)

はい。今、私たちの踊っている踊りというのは、少年団の踊り、要は子どもたちが覚えやすいように簡単に踊りを省略したものです。本来の踊りは、まだまだステップがありまして、そのステップを覚えている方は、今はもう会員の中で2人しかいません。その方が元気なうちに何とか今の若い人たちに教えてもらおうということで、検討をしているところです。若いメンバーも本当のステップを覚えた方がいいという気持ちになってくれているの

で、そういった方向で練習をして、若い人たちに本来のステップを覚えてもらおうという考えでいます。

(森教授)

こきりこ唄保存会の皆さん、いかがでしょうか

(羽幌町こきりこ唄保存会)

学校との関わりについてですが、羽幌町内に小学校は1校になりまして、ここ十数年、15年くらいになりますけれども、学芸会で5年生がこきりこの踊りに取り組むことになっていまして、毎年練習を2週間の間に6日から7日間くらい、私たち保存会員が（学校に）行って子どもたちに直接、笛・太鼓、踊り、唄を直接教えるということを行っております。

子どもたちもとても積極的で、毎年5年生が行っているものですから、下の1年生2年生は、私たちが5年生になったらこれをやりたい、というように今では期待を持って取り組んでくれていて、とてもうれしいことです。

私や保存会の希望としましては、羽幌町の子どもたちみんながこきりこを踊ることができ、唄も覚えることができましたので、羽幌の子どもたちはそれに触れているということで、まだ実現していませんが、大人がこきりこ唄保存会に入ってほしいと思いますが、なかなか難しいです。みんなが踊りや唄に親しんで自分たちの郷土芸能だという自覚を持ってもらっているのではないかと考えておりますが、直接の保存会員になってもらえないことが今のところの悩みであります。

(森教授)

そうしますと学校の理解ですとか、先生の理解などがとても大切になっていきますね、こきりこ唄保存会さん。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

はい。私たちこきりこ唄保存会の年齢も高くなってきました、結構教えることも難しいのですが、学校の方も今では、5年生になったら学芸会のために指導してくれるのだ、という

ことで、今年は学芸会自体がなかったので教えることはなかったのですが、毎年そのように是非教えてほしいという形ではあります。

(森教授)

豊郷神楽保存会さん、いかがでしょうか。

(豊郷神楽保存会)

私どもは、先ほど申しあげましたとおり、危機的状況に対応し一般公募を実施した平成26年以降は新会員を中心に、4月、6月、7月で、30日間ほど計画的に練習しております。

また、地元の子どもたちに対しては、平成8年から指導の取組を行っておりますが、平成12年からは、学校の総合的な学習の時間の中で取り組んで頂き、会員を講師として派遣して神楽の指導を行い、その成果を学芸会で披露するなど現在に至っております。

平成26年は新会員の募集以外にも、子どもたちが学校教育の一環だけでなく、地域に出て活動しやすくするなどして、神楽殿での奉納者の拡大を図り、豊郷神楽の歴史105年目で初めて子どもたちや女性、地域外の方も神楽殿で奉納できるようにいたしました。

さらに平成28年には、小学生を中心に中学生や卒業した子たちなどが、神楽の練習参加、市の行事、流氷まつりや各種行事などへより一層参加しやすくするため、保護者と協議し豊郷神楽保護者連絡会を結成しました。これにより保護者と保存会が一体となって活動できるようになり、また学校と連携協力しながら対応していく体制が整いました。

そして平成29年には、三者で豊郷神楽の子ども神楽という位置付けを協議し、保存会が責任を持って子ども神楽を運営することとし現在に至っているという状況でございます。

(森教授)

今の豊郷神楽保存会さんの話を聞くと、学校も含めて地域ぐるみで、非常に組織立って伝承に対して取り組んでいるのかなという感想を持ちました。ありがとうございました。

三つ目の質問に移らせていただきますが、これもまた、今までお尋ねしたことと少し重なってきますけれども、地域に住んでおられる住民の皆さんとの関わり、先ほど、豊郷神楽保

存会の皆さんは非常に組織立って活動しているというお話でしたが、日向神代神楽愛好会さん、苫前町くま獅子保存会さん、羽幌町こきりこ唄保存会の方、この3つの団体の方にお聞きしますが、住民の皆さんの理解とか、応援とか、その辺りはいかがでしょうか。日向神代神楽愛好会の皆さん、いかがでしょうか。

(日向神代神楽愛好会)

はい、地域の住民の応援というものは非常にあります。地元の多寄中学校の生徒が日向神代神楽の演目を踊った時、地域の多寄地区の方々が、なつかしい物を観させてもらった、今後も続けていってほしいという言葉があったりなど、こうした伝統芸能が多寄にあるということに改めて気がつけて良かった、今後も何とか継承していってほしい、など住民の理解は非常にあると思います。

(森教授)

苫前町くま獅子保存会の皆さん、いかがでしょうか。

(苫前町くま獅子保存会)

くま獅子舞は、途中10年間ほど舞を披露することができなかつたのですけれども、復活した時に町民の皆さんから、復活してくれて良かった、またこれを観ることができて良かった、そのような声をたくさんいただきました。

色々な部分で、衣装もそうですが、昔のモンペだとか、そういった物を寄付していただいたりとか、そういった活動に協力してくれている方もたくさんいますし、復活した時にテレビや新聞などで報道していただいて、全道の苫前町出身者の方々から、復活してくれて本当にありがとうという声をいただいて、メンバーもこれは続けていかなければならないという気持ちになっているところです。

(森教授)

羽幌町こきりこ唄保存会の皆さん、いかがでしょうか。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

こきりこ唄と神楽舞というのは、古式ゆかしいという雰囲気がありますので、そのせいか、結婚式での披露などで呼ばれることも度々ありまして、そこで良い物を観させてもらった、という声がありました。

私は、羽幌町の方は皆さん既に何回か観ているのではないかと考えていましたら、そうでもなく初めて観たという方もいましたので、まだまだ羽幌の中でも何回も行っていかなければならないな、と思いました。

(森教授)

今、非常に面白いと思ったのは、結婚式という個人的なお祝いに呼ばれて、そこに出て行くという、かなりアクティブな活動なのかなというふうに思いました。豊郷神楽保存会の皆さんは、個人的なお祝いとか要請に応えることはありますか。

(豊郷神楽保存会)

私どもは、色々な取組をしておりますけれども、個人のお祝い事などに行くことはない状況でございます。

(森教授)

日向神代神楽愛好会さん、苫前町くま獅子保存会さんは、何か個人的なお祝いに出たり、今後出ることを検討することはあるでしょうか。

(日向神代神楽愛好会)

日向神代神楽では、過去の活動で個人的なお祝いに出たことはありませんが、非常におもしろいと感じました。今後の活動で、可能であればやってみたいと考えております。

(森教授)

苫前町くま獅子保存会の皆さん、個人的なお祝い、小グループでのお祝いなどいかがでしょうか。

(苫前町くま獅子保存会)

我々の舞は、なかなかお祝いをするという内容ではないので。

(森教授)

そうですね、失礼しました。

(苫前町くま獅子保存会)

熊に食い殺されるという内容ですので、お祝いに呼ばれることはないのですが、色々な周年行事とか出演依頼はあるのですが、メンバーの職業がばらばらであり、出演できる日が決まってしまう。日曜日などでないとダメ、夜ではないとダメなどということがあるので、依頼があってもなかなか出演できない状況ではあります。

(森教授)

踊りの性格によって決まってくるね。出られるもの、出られない行事があるのは当然のことだろうなと思いました。

こきりこ唄保存会さん、ちょっとこんな質問すると、いやらしいのですが、結婚式に出演されたときは、ご祝儀はいただけるのでしょうか。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

もちろんです。

(森教授)

それは、活動資金になるということでしょうか。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

そうです、断ったことはないです。

(森教授)

そうですね、素晴らしいですね。ありがとうございました。

次の質問に移らせていただきますが、今度は地域からちょっと離れて、皆さんどの団体さんも、地域の理解を得たり組織立った活動をしたり、場合によっては個人のお祝い等に出向いたり、かなりアクティブに活動しているというのは理解させていただいたのですが、他の地域との関わりですね、特にルーツがはっきりしているところもありますし、それから、苫前

町くま獅子保存会の方は創作ということかなと思っています。

そういう意味で、必ずしもルーツとの交流ということにはならないのかもしれませんが、地域以外の他の地域との関わりについて、近隣の自治体などの繋がりも含めてどのような状況なのか、その辺りもお聞かせいただきたいのですが、日向神代神楽愛好会さんはいかがでしょう。

(日向神代神楽愛好会)

日向神代神楽の他都市との交流ですが、以前、先代の神楽のメンバーが（岩手県）一関市の神楽の由来になった大門神楽に訪問したことがありまして、その時に向こうの神楽の方々と交流し演目を見せ合うという経緯があったようなのですが、今はそうしたことを行っておりません。大門神楽さんが今、後継者不足で舞ができていないという状況だそうで、向こうの神楽の形がわかる物がなくなってきているという状況で、北海道の日向神代神楽が続いているので、また改めて交流して、向こうの方に活気づいてもらえるような機会を設けられないかということで、今、一関市の文化財課の方と色々やりとりをして、交流できないかと相談をしたりしています。

(森教授)

今、日向神代神楽愛好会さんから、非常に重要な指摘をいただいたかと思います。源流地の方では後継者不足で、舞ができなくなったのに、逆に北海道の方は、一生懸命頑張って保存している。その現実を聞かせていただいて、逆にこの北海道から逆輸入するというか、そういうタイプの交流もあるのかなと思った次第です。そのあたり、日向神代神楽愛好会さんいかがでしょう。

(日向神代神楽愛好会)

先生が今おっしゃったように、源流地の方で途絶えかけてしまっているので、逆輸入という形で向こうの若い方などに、ぜひ源流となった神楽が北海道で続いているということを知っていただいて、我々の元、源流になった向こうの神楽を再興してもらいたいなということ

と、我々の方は、舞の省略化などがされていて、もとの踊りがわからなくなっているものも
ありますので、向こうに行った際には我々のルーツになっている舞などを探って踊りを深め
ていくことをしていきたいと考えております。

(森教授)

せっかくそのような繋がりがあるので、お互いにW i n W i nの関係が今後も継続できれ
ばいいのかなと思った次第ですが、苫前町くま獅子保存会の皆さん、他の地域との関わりに
ついて、くま獅子は、先ほど申しましたとおり、創作した地域固有の民俗芸能ということだ
ろうと思うのですが、他の地域との関わりはどのような状況でしょうか。

(苫前町くま獅子保存会)

先ほど紹介しましたとおり、地元の惨劇をそのまま獅子舞にしたということで、もとな
る踊りがないということで、交流はほとんどありません。ただ、以前は全道の神楽・獅子舞
の発表会が札幌であった時に招待されたり、そういった部分での交流はしてきました。

あと、三重県の桑名市と苫前町は姉妹都市の提携を結んでいまして、過去には人的交流も
あったのですが、財政的な面もあり、今はしていないのですが、できればそういった所と交
流をして、向こうへ行って披露したりしたいという希望を持っています。

(森教授)

苫前町くま獅子保存会の方は、独自につくられた民俗芸能であるということですから、ル
ーツということではなかなか厳しいのですが、札幌など都市部でのイベント、フェスティバ
ルがあった場合には、それに積極的に参加するということですね。今はコロナで難しいと思
いますが、以前は、出て行って披露するという場面は、苫前町くま獅子保存会さんは結構多
かったのでしょうか。

(苫前町くま獅子保存会)

はい、私が入会してから札幌で4回ほど、開拓の村や旭川の買物公園など結構参加させて
いただいております。

(森教授)

なるほど、ありがとうございました。私の個人的な話になりますが、富山県の獅子舞を北海道に呼んだことがありまして、その時に千歳空港のエントランスで舞っていただいたのですが、ものすごい反響があったので、今はなかなか集まれませんけど、都市部で人口の多い所で郷土芸能の披露をするというのはすごく意味があるなと思いました。

それから、姉妹都市提携をしている所というのは結構あると思います。海外との交流というのもしかするとあるかもしれません。例えば獅子舞でしたら中国とかですが、実は去年、中国に行ったのですが、獅子舞のことは非常に関心を持っていましたので、広く日本だけではなくて、海外との交流も含めて、視野に入れていくのかなと思っておりました。

ちょっと余計なことを言ってしまいました。羽幌町こきりこ唄保存会の皆さんは、他の地域との交流というのはいかがでしょう。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

こきりこ唄は富山県の平村から羽幌に開拓で二十数名入ったのを縁に獅子舞も来まして、獅子舞の源流調査をし、それをきっかけに友好町村を結び、交流をしました。私は開拓に入った3代目で、こきりこ唄は越中でお神楽を踊っている富山の本家から羽幌は分家として認定されて行っています。町民芸術祭などのイベントには必ず参加させてもらっているのですが、本家の方との交流は、今まで平成13年から保存会で3回くらい行ったり来たりし、小学生、中学生に指導してもらったりしています。そのような交流をしていますが、だんだん参加する子どもたちが少なくなっているんで、(交流を)維持していくのが大変です。そのような状況です。

(森教授)

実は私は学生の頃、富山県の東砺波郡の平村に行きました。昔で言う庄川郷ですが、川沿いの山奥の岐阜県との県境に五箇山という合掌づくりの集落がありまして、今は世界遺産になっているかと思います。向こうではどうですか。実際に、交流に参加されましたか。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

はい、3回ほど行きました。

(森教授)

なかなか行ったり来たりするのが大変な地域だと思うのですが、いかがですか。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

そうですね、お金もかかるし、2回目には小学生や中学生を対象に連れて行きましたが、町から補助金も出ましたが、行き来するのは大変です。

また、昭和54年に私が平地区に住んでいた時、札幌大学の宮良高弘（みやら たかひろ）先生が1ヶ月ほど調査に来られて泊まっていたのですが、その時森先生にも会っています。

(森教授)

そうですか、昔の話になるとは思いませんでした。そういう意味で平村は、懐かしいです。マスクしているので顔が見えないのですが、宮良先生はお亡くなりになりましたが、そういうお祭りや民俗芸能の伝承で頑張っていきたいと思いますが、お会いできて、まだ頑張っていらっしゃることを知ってとても嬉しい気持ちです。また直接お会いしたいなとも思っています。

今後また機会があれば交流は続けるという形でしょうか。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

はい、そうしていきたいと思います。

(森教授)

豊郷神楽保存会の皆さん、先ほど地域の中で伝承の仕組みをつくられているというお話でしたが、他の地域との関わりについて、教えてください。

(豊郷神楽保存会)

私どもの入植者の出身地というのが、宮城県の角田市君萱（きみがや）という地域になります。このつながりから平成7年には親神楽になります仙台神楽の君萱若松神社神楽会一行

に網走まで来ていただいて、神楽を4幕披露していただいたということがございました。

そして110年経ったこともあり、親神楽を入口に豊郷神楽の源流調査を改めて取り組み、宮城県の仙南地区のほぼ全域に伝承されている出雲流岩戸神楽が源流とわかりました。

これをきっかけに角田市の教育委員会とやりとりを重ねており、親神楽である君萱若松神社神楽会と今後も交流を続けていきたい話を今、まさにしているところです。

また、友好都市である沖縄県糸満市との交流も行っております。網走市と糸満市は交流の一環として市職員の交換を行っており、糸満市からきた職員が2年続けて豊郷神楽保存会へ入会し神楽の笛を習得して沖縄へ戻りました。このつながりから糸満市の大規模な年越しイベントであるピースフルイルミネーションへの出演オファーがあり、年末年始という時期ではありましたが手弁当で訪問させていただき、糸満市でも神楽を披露させて頂きました。また青少年においては、糸満市からの中学生訪問団が訪れた際には、市教委と保存会が連携して伝統芸能交流会を実施し、エイサーと神楽の相互披露、相互体験など交流を深めました。このように他地域との交流を実施してきております。

(森教授)

素晴らしいですね。縦に出身地、ルーツを探るという調査をする一方で、姉妹都市、友好都市の提携をきっかけとして縦糸とは別に横糸で、中島みゆきの歌ではありませんが、横糸も結びながら新しい継承の形をつくっていく、非常に前向きな取組と理解させていただきました。

それから、5番目の質問になりますが、地域振興との関わりで、今現在取り組んでおられること、あるいはこれからやりたいと考えておられること、そういった話もお聞かせいただければなと思っております。日向神代神楽保存会の皆さん、いかがでしょうか。

(日向神代神楽愛好会)

はい、地域振興は特に考えておらず、会員たちの集まりの場ということをまず第一歩と考えているということで、地域振興は特に考えていないのが現状です。

(森教授)

例えば、観光客とかそういう方に見せたりとか、そのようなことに関してはどのようにお考えでしょうか。

(日向神代神楽愛好会)

観光客が来てくださるそういう場を今後つくるのであれば、ありかもと考えてみたりはするのですが、今のところはそこに至っていない、会員の数もまだ少なく、かつ舞い手がまだ揃っていないという現状もあったりして、しばらく時間がかかるのかなと思っております。

(森教授)

多寄神社祭、中多寄神社祭というところで、舞が披露されているのですよね。ですから、観に来たければそこに行けばいい訳ですから、それが観光であれ、ビジネスであれ、あまり関係ないところでありますが、そこで実際観ることはできると思いますが。苫前町くま獅子保存会の皆さんは、地域振興に関してはどのようなお考えでしょうか。

(苫前町くま獅子保存会)

地域振興ということについては、特別考えておりません。ただ、町の郷土資料館の方で、この熊事件がテレビドラマが30年くらい前に放送になり、その映像を常時観光客に観ていただくことは可能になっていますので、その中に獅子舞の映像を入れるのも一つの手かなとは考えています。

(森教授)

郷土資料館の取組などで考えているということでした。羽幌町こきりこ唄保存会の皆さんは、いかがでしょうか。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

今のところ実際的な活動というものは、やっておりません。羽幌町には大きなホテルがあり、何年か前に、そこのロビーでお客さん相手に、夜に披露したら良いのでは、ということでホテル側と話し合いまで行ったのですが、実現するには至りませんでした。今のところ

は、特別何もやっておりません。

(森教授)

そのような形で観光客にお見せするということになるのと、本来の日や場所を変えて、ホテルの都合に合わせてやらなければならないことになるので、なかなか地域の皆さんの負担も大きくなってきて、難しい面があるだろうなと思いつつ、質問させていただいています。豊郷神楽保存会の皆さん、いかかでしょう。

(豊郷神楽保存会)

地域振興ということだけではありませんが、市の教育委員会のイベントには参加させてもらっていますし、クルーズ船の入港の時には歓迎の一環として船内で披露したり、色々な形で披露する機会をいただいております。我々の考え方としては、それを新聞等で取り上げてもらえると広報活動になることから、保存会の宣伝・理解促進という視点からも積極的に参加させていただくなど活動を行っております。

また、観光協会と連携して、道東各地をはじめ道内、さらには東京での北海道物産で披露するなど、かなり広範囲に渡って取組をこれまで行ってきています。

(森教授)

肝心な事をお聞きするのを忘れていたのですが、活動するには何をするにもお金がかかる、お金の話ばかりですが、活動資金というのはどうでしょうか。うまく回っているのでしょうか。

(日向神代神楽愛好会)

日向神代神楽の活動資金につきましては、基本的に会員の方から会費を練習の飲み物代ということで年間1,000円いただいでいて、それで回しています。また、地元の神社や色々な所で演目を行った際にご厚志としていただくお金を活動資金に回している形で会として運営しています。

(森教授)

苫前町くま獅子保存会の皆さん、いかがでしょうか。

(苫前町くま獅子保存会)

苫前町くま獅子保存会は、基本的に会員からの会費で行っています。町の無形民俗文化財の指定を受けていますので、道具の修繕や新たに購入については、町の予算をつけていただいた中で、会の運営をしています。もとは、出演依頼が多かった時には、謝礼などもかなりあって結構色々な物を買ったりできたのですが、今はなかなか出演もできないので、基本的には、会員からの会費と町からの補助金で活動しております。

(森教授)

羽幌町こきりこ唄保存会の皆さんいかがでしょうか。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

こきりこ唄保存会は、町の補助金と会員 26~27 人の年会費をあてにしているのと、文化協会など（の資金）があります。あとは、小学校の学芸会で子どもたちが踊るために、60 人いるのですが、衣装を揃えるのも大変だったのですが、町の方から補助金とか宝くじなどの助成金を充てまして、衣装や道具を揃えました。衣装は揃ったけれど、踊る人がなかなか入ってこないという心配はあります。

(森教授)

豊郷神楽保存会の皆さん、ありますか。

(豊郷神楽保存会)

私どもは、会費はもらっておりませんが、地域組織の母体である豊郷区会から、神楽の保存活動資金として毎年一定額を出していただいたり、神楽殿の修理などを含めた維持管理を行っていただいております。

また、各種行事に出演した時の謝礼金や、毎年 8 月 1 日の神楽殿での奉納の際に一般の観衆から御花と称しまして寄付金が寄せられます。それらを活動資金としております。

その他には、備品の整備として宝くじの助成金を有効に活用させていただいて、整備を行

っております。

(森教授)

ありがとうございました。人口が減っていく中で、地域の方々からの会費だけだと先細りする可能性がありますし、市町村の補助金にも限界があるということですから、もう少し積極的に色々な活動しなければいけないなという部分もあり、その中に、観光というのがありますが、豊郷神楽保存会さんのように、例えば区会、あるいは謝礼、それから一般の観衆からの支援金のような形も今後取り組んでいく一つのモデルになるのかなと思った次第です。

想定された質問は、大体以上でございますが、最後に私の方から一つだけ質問させていただきます。後継者の育成にしても、どんどんメンバーが代わってくるので、先ほどの（民俗芸能の実演に係る動画視聴において、北海道）教育委員会さんの方で、動画を製作していただきましたけど、こういう舞・踊りの資料を保存したり活用したりすることに関して、どのようにお考えか、当初予定のご質問にはございませんでしたが、一言ずつお話いただければと思っております。日向神代神楽愛好会さんいかがでしょうか。

(日向神代神楽愛好会)

記録についてですが、私自身、本来博物館で学芸員をしておりますして、記録の伝承だったり、もともと分からなくなってしまうまいよう、色々映像を撮ったり、紙の資料で残したり、仮に私たちの代で（途切れても）分からなくなってしまうまいよう、今後別の形になっても引き継いでいける形を整えていこうとしている最中です。以上です。

(森教授)

苫前町くま獅子保存会の皆さんいかがでしょうか。

(苫前町くま獅子保存会)

苫前町くま獅子保存会は、最近の踊りはビデオに撮るなどして保存しております。もともとの笛や太鼓は譜面として残っていますので、それは続けていきたいと思っておりますが、もともとの踊りを記録した映像がないので、それを今探している状況です。それが揃え

ば、過去からの映像がほぼ全部揃えられるのかなと思っております。以上です。

(森教授)

羽幌町こきりこ唄保存会の皆さんいかがでしょうか。

(羽幌町こきりこ唄保存会)

そのような保存に関しましては、きちんとできていない面があると思います。きちんとした年は、1年間発表した全ての記録が、今で言うとDVDで1冊に残っている年もありますし、やっていない年もあります。もう少し継続的に大きな目で保存ということを考えていかなければならないと思います。

(森教授)

豊郷神楽保存会の皆さんは、本やビデオ、CDなども出しておられると思いますが、保存についてお考えを教えてください。

(豊郷神楽保存会)

神楽は源流調査の時もそうでしたが、口頭で伝わっているものしかなく、文書として残っているものが、どこの地方でもほとんどない。あったとしても練習用の道具箱に少し記載されているものなどを発見するという状況です。

そんな状況のなか、神楽の口承伝承に関して大きな存在であった、入植者の2代目が2～3年前に相次いで亡くなってしまい、伝承に関して危機感を持っております。

そのため、保存会では110年の節目に合わせて伝承誌の作成を進めており、その一環での源流調査を実施し由来の整理や笛の楽譜化、舞の図示など取り組んでおり、これを作っていくことで次の世代に伝承していけるのではないかと考えております。

そのような思いで取り組んでいる時に、このような機会に道の方にまとめていただいた動画については、資料として使わせてもらえるということで非常にありがたいと思っております。

(森教授)

ありがとうございました。もう時間もなくなってきましたのですが、最後に、皆さんの方から何か質問、要望等ございましたらお話いただきたいのですが、いかがでしょうか。特に当てたりませんが、よろしいでしょうか。

本日は、リモートによる民俗芸能伝承 e (いー) フォーラムという、私も初めての試みで、なかなか慣れていないところがあるのですが、冒頭で申し上げましたように、コロナ禍における新しい取組ということで、私は大学の教員もしているのですが、ほとんどリモートです。それで、逆にリモートだからこそできる部分というのがあるかなと思っております。

一番最後に、記録、あるいはその記録したものの活用という話をさせていただきましたが、舞、踊りをそのまま伝えるという従来のやり方に加えて、動画編集とか活用ということになると、若い人たちもそういう意味で参加してくれる人もいるのではないかと考えております。実際にそのような学生もおりまして、動画の分析解析も、今、非常に A I の技術が進んでおりますので、取り組むべき課題の一つなのではないかと考えた次第です。

色々検討すべき課題は山積しておりますが、本日の意見交換にご参加いただきまして誠にありがとうございました。大変貴重なお話をいただきました。私も非常に勉強させていただいたので、今後の活動に活かしていきたいと考えております。本日はどうもありがとうございました。